主任コラム 12 月号

主任　澤井　良子

今年度に入り、年長児がお手伝い保育（0・1 歳児）や、お布団当番・配膳当番・お片付け当番をしてくれています。最初は楽しむ気持ちや「お当番」という響き、年長児として任されることが嬉しかったのだと思いますが、徐々に「年少さんが、1 人で寂しそうだからおってあげたいから、お当番しない」「りす組さんのお手伝いはしたいけど、お布団敷はしたくない」などの声がチラホラ出ていたので、年長児の昼からの時間を使って話し合いをしました。「好きなお当番はしたいけど、したくないや、やらない…はどうなのかな？」と投げかけると、『やりたくない時もあるけど、やらないのは駄目だと思う』『お当番だからどれもやらないとダメだと思う』という意見がでました。そこで、リーダーさんを中心に子どもたちで話し合い意見を出してもらいました。ほぼ全員が「お当番・手伝い活動はやる！」に決めたのですが、1 人だけが「りす・ひよこ組さんは行きたいけど、他の当番はやりたくないからやらない」と言い出しました。もちろん、お当番活動はして欲しいですが、強制することは良くないと思い『Ａちゃんは、お当番はしたくないって言ってるけど、みんなは、お当番やるのでいいのかな？』と他の子に聞くと、「Ａちゃんが全部お当番できなくても本当にいいんだったらいいよ」言ってくれました。Ａちゃんが、いつか自分からやりたい！と言い出してくれるまで担任の保育士と待ちながら様子を見ることにしました。3 週間たったぐらいたったある日、Ａちゃんが「やっぱり、ひよこ・りす組さんにお手伝いに行きたいから、お当番やろうかな」と呟き、それを傍で聞いていた担任が（Ａちゃんが、お当番をやりたい気持ちに変わってきている！と）嬉しそうに私に教えてくれました。そして、Ａちゃんは「僕、ひよこさん、行きたいからお当番全部やってもいい？」と言いに来てくれました。私は、あの時に無理に「年長さんだし、みんながやるんだからＡちゃんもやらないとだめだと思う」と大人の言い分や、みんながやるから…とまとめようとせず、Ａちゃんの気持ちが動くことを信じて待ってあげて良かったな…と感じました。

見守る保育とは、よく「子どものことを見ていたらいいんですよね？」と聞かれますが、『ただみている』という放任の保育ではなく、【子どもの本来持っている力を引き出すもの】です。保育所で一番大事にしなければならないのは【子どもの最善の利益】です。子どもの発達を保障するということは、子どもが自ら育とうとする姿を見守り、持っている力を信じること…そして乳幼児施設は、子どもの発達を保障する場ではならないと研修の中でもよく言われています。喧嘩にしても、ピーステーブルで子ども達だけですべてを解決させるばかりではなく、子ども同士が話す中でも、どうしたいのか・どう思っているのか・などをお互いに言えているのかを保育士が傍で聞き、解決法を大人が言ってしまうのではなく、子ども達自身が相手の思いを知り気付いていけるように見守り、保育していきたいと思っています。